

乳がん高度検診・治療センター NEW - す NO. 22

2016.3

乳腺超音波検査（エコー検査）についての最近の話題

乳腺の画像での検査として、超音波検査（エコー検査）はマンモグラフィとともにその双璧をなすもので、しこりのある患者さんでは両検査が必要不可欠です。当乳がん高度検診・治療センターでは検査室および各診察室に計4台の超音波検査装置を保有しており、乳腺超音波検査専門技師や乳腺外科医により年間のべ約4,500例の検査がなされています。機種も最新のもの揃えており、いずれも、しこりの硬さ（硬いほどがんの確率が高い）を色調で表すエラストグラフィや、腫瘍の血流（血流が豊富なほどがんの確率が高い）を観察する血流ドブラなどの機能が備わっています。うち1台は近々更新予定です。乳がん専門病院でもこれだけの超音波検査機器を有している施設はそう多くはありません。

超音波検査により、しこりの有無や、しこりがあればがんかどうか、がんであればその広がりやわきの下のリンパ節転移の有無、など多くの情報が得られます。ただ、がんの発見契機となりうる石灰化についてはマンモグラフィに比べて劣ります。一方、乳腺組織が密なためマンモグラフィで乳腺全体が白く写ってしまう高濃度乳腺を呈する若年者ではマンモグラフィより威力を発揮します。身体への負担もほとんどなく、放射線を使用しないので安心して受けていただくことができるのは超音波検査の大きな強みです。超音波検査によりしこりの存在がわかり、がんが疑われるときには、超音波誘導下での細胞診、あるいは針生検や吸引式乳房組織生検（マンモトーム生検）などにより乳がんの確定診断がなされるのが通常の診断の流れです。

なお、超音波検査についての最近の話題として、40歳代の女性での乳がん検診にマンモグラフィと併用するわが国での大規模な研究があります。これは「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験（J-START；ジェイ・スタート）」と呼ばれる厚生労働省が立ち上げた国家的プロジェクトです。この研究では、40歳代女性の乳がん検診として、マンモグラフィに超音波検査併用が有効かどうかを検証する目的でなされました。最近、その成果の一部が報告されましたが、40歳代の女性での乳がん検診においてマンモグラフィに超音波検査を併用することにより、マンモグラフィ単独よりもより多くの乳がんが見つかることがわかりました。欧米に比べて40歳代の乳がんが相対的に多いわが国では特に意義のある研究成果で世界的にも注目されています。ただ、超音波検査の併用により乳がん死亡率が低下するかどうかの結論にはもう少し時間がかかります。当院では検診に超音波検査も希望される方にはオプションとして行っています。

さらに詳しいこと
をお知りになりたいこと
がありましたら、乳がん
高度検診・治療
センターにお問い合わせ
ください。



乳腺超音波検査で得られる情報や診断への応用

しこりがあるとき、乳がんか良性かの鑑別

無症状の方への乳がん検診への応用（特に若年者）

乳がんの広がりや多発の有無、リンパ節転移の有無などの診断

超音波誘導下での細胞診や組織診（針生検、吸引式乳房組織生検）



KAZUOKA

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865